

(議長 寺島渉)

日程第 1、一般質問に入ります。

質問の順序につきましては、お手元に配布の一覧表とおりであります。

一問一答方式による活発な分かりやすい質問、答弁を期待しております。

なお、質問事項はあらかじめ通告されておりますので簡潔に発言されるようご協力をお願いしたいと思います。

それでは発言順位 1 番、議席番号 1 番、石川信雄議員を指名いたします。石川信雄議員。

なお、石川信雄議員より演壇における資料等提示許可願がありました。

議長はこれを許可しましたので報告をいたします。

(1 番 石川信雄)

それでは改めましておはようございます。6 月議会にあたりましてよろしくお願ひしたいと思います。一般質問も今日を含めまして残り 2 回となります。任期中あと 2 回でございますので、うち 1 回、今日もしっかり一般質問をしてまいりたいと思います。

早速であります、ユネスコスクールについて質問いたします。以前から ESD 教育の取り組みを提言しておりますけれども、新任となりました教育長は、このユネスコスクール、持続可能性についての開発にあたっての教育ですが、どのようなお考えをお持ちでしょうか。

今回、中学校長も新しく代わられました。ですので、以前の清水校長の答弁では、そんな余裕はないと直接私も伺った経緯がございますけれども、今回改めて新しい中学校の校長先生になりましたし、どういったお考えをお持ちか、また教育長が代わり中学校長も代わったということでチャレンジする良い機会ではないかなと思っております。

学校現場におかれましては、29 年度中には、信州型コミュニティスクールへの移行、また来年度からの小学校統合もある中で学校側としては多忙とは思いますが、また今後においても、小学校でプログラミング教育が 2020 年度からは必須になります。そのような中で新しい教育のあり方の対応につきまして学校現場では一体どのように進んでおられるのか、お考えを聞きたいと思っております。

(議長 寺島渉)

馬島教育長。

(教育長 馬島敦子)

ご質問ありがとうございます。ご質問にお答えしたいと思います。

まず、石川議員からありました、ESD 教育についてですけれども、私も ESD 教育は大切な教育であると考えております。また、ESD 教育というものについて、現在、飯綱町の小学校、中学校、保育園において既に教育現場の実情に合わせた ESD 教育が成されていると考えています。これらの学習は、今、石川議員からもありましたように飯綱型教育として、今後も力を入れていきたいと考えている分野であります。

ESD 教育について、文部科学省の意味付けは以下ようになっております。ESD 教育とは現代社会の課題、この現代社会の課題というのは具体的に環境、貧困、人権、平和、開発等、そういう課題を指すわけですが、現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことでそれらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すもので、それによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習活動のことを言い、持続可能な社会づくりの担い手を育む教育活動と文部科学省では意味付けています。

そういう観点に立ったとき、現在、飯綱町におきましては、小中学校、保育園の教育現場におきまして、例えば小中学校では総合的な学習の時間や教科学習、それから行事、児童・生徒会活動を通して、環境学習や人権教育、平和学習を行っています。さらにそれらの学習は単なる知識としての学習ではなく、ふるさと学習と結び付いた生きる力の学習になっています。保育園でも野菜を作ったり散歩をしながら地域を歩いたり、これも ESD 教育の一環ではないかと考えています。

このように、もう飯綱町では ESD 教育が具現化されて教育現場で推し進められているし、これからもそういうことを積極的に取り組んでいきたいと考えています。

また、石川議員からありましたユネスコスクールについてですけれども、今日ユネスコスクールの資料を出していただきありがとうございます。高山中学が認定報告を受けたという資料をいただきました。

が、今、長野県の身近なところでは、高山中学のほか山ノ内東小学校、それから高山小学校などがユネスコスクールに加盟しているようです。高校ではこの近くでは長野西高等学校、あと南の方の高校もいくつかあったと思います。そこで、山ノ内東小学校の例ですけれども、どんなことをやっているのかということ調べてみました。そうしましたところ、山ノ内東小学校では福祉施設とのふれあい交流、それから町内 4 校による志賀高原登山交流、それからコカリナの演奏、りんご栽培学習、大豆の栽培と味噌づくりといったような活動を行っているという報告されていました。

この内容を見ますと、ユネスコスクールに加盟する、しないという違いはあっても、もう既に飯綱町でもこれと同じようなことをやっていると感じております。ユネスコスクールに加盟するかしないかということについてですけれども、教育長といたしましては教育委員会の方から小中学校に加盟してはどうですか、加盟してくださいというようなことを言うつもりはありません。これはあくまでも ESD 教育を深める手段の一つであって目的ではありません。飯綱町の小中学校が今行っている ESD 教育を更に深めていく中で、是非、うちの学校はユネスコスクールに加盟して、もっとこの学習を深めていきたいというようなことが、小中学校の方から声が上がって、ユネスコスクールでも頑張りたいというようなことを言われたとしたら、この新聞記事にもありますように飯綱町の教育委員会としても全面的に協力したり、支援したりしていくことはやぶさかではありません。

ただ、先ほど去年の清水校長先生の話が石川議員の方からありましたけれども、今、教育現場では先生方が日々本当に忙しい中で、児童・生徒のために一生懸命に教育活動をしていたださっています。ユネスコスクールに入ると、例えば研修に参加しなければいけないとか、報告書を作って提出しなければいけないとか、大変現場の学校に負担が掛かります。今、統合問題で小中学校の先生方は大変忙しい毎日を送っておられますし、いろいろな教育活動を本当に忙しい中で一生懸命やったださっています。そういう中で更に新たなものを付け加えるといったときに、新しいことをやるからこれをなくしてください、今までやっていたこれをやめて新しいことをしましょう、という提案ができるのであれば別ですけれども、今の段階で目一杯やったださっているところに、更に新しいことをやったださいたいということをごちから言うという考えはありません。

ただ、何回も申しますが、もし小中学校の方から是非やりたいんだというような声がありましたら、一生懸命応援していきたいと思っています。以上です。

(議長 寺島渉)

石川議員。

(1 番 石川信雄)

今議会で配布されました議会一般質問答弁の進捗状況で、私が 28 年の 9 月議会に同じ件で質問しているわけですが、その対応内容として、まず定例教育委員会でメリット、デメリットなどの検討を行うと回答がありまして、学習することにデメリットというのを感じて人は学習するのかと考えますと、デメリットを感じて学習する人はまずいないと思うんですね。この回答も非常に変な回答ではありませんけれども。それで、このユネスコスクールについては私も 3 回目となりますけれども、今までに教育委員会から学校の方に、ユネスコスクールについて学習する機会を設けたり、また生徒・児童に対して、こういうものがあるんだよと周知した経緯は実際にあるのかどうか、そこをちょっと確認したいと思います。

(議長 寺島渉)

馬島教育長。

(教育長 馬島敦子)

ユネスコスクールにつきましては、ユネスコ協会からいろいろな資料が教育委員会を通じて送られてきてまして、そういうものは教育委員会だけではなく、全国の小中学校、または高等学校にそういったものが送られています。ですから、高山村や山ノ内町でもそういったものを見て、それを検討した結果、参加をしているのだと思います。

飯綱町におきましても、小中学校にもそういう資料は届いておりますし、先生方もそういうことはご存知の上だと思いますし、その上でユネスコスクールに加盟するという考えというかアクションはなされていないのだと思います。

（議長 寺島渉）
石川議員。

（1 番 石川信雄）

今回、改めまして私の方から 5 月 24 日付けの信毎の記事を配布しておりますけれども、その中で当町ともだぶったところで、中学生議会を開催したり、高山村においてもそういった村や町の自然、歴史、伝統文化を学びということの記事が載っております。

同じようなことを既に実践していると今教育長からの答弁でありましたが、同じようなことを実践しているのと、実際に申請して国際機関に認定されるのとでは意味合い、重要度がまるで違います。そのことについてはどのようにお考えでしょうか。

（議長 寺島渉）
馬島教育長。

（教育長 馬島敦子）

重要度が違うというご指摘でしたけれども、ちょっとそここのところの意味合いをどう理解してよいのか分からないのですが、飯綱町の教育委員会にとって一番大切なことは飯綱町の子どもたちの幸せであり、飯綱町の子どもたちが健全に育っていくことであり、そのためにはどんなことでも一生懸命やっていきたいと思っています。例えばユネスコスクールに加盟することが飯綱町の子どもにとって一番大切なことであるといえれば何をしてもしたいと思いますが、先ほども申し上げたように私はそれは教育活動を行う上での一手段でしかないと思っています。教育活動の目的は今申し上げたように飯綱町の子どもたちが本当に幸せで健全で豊かな人間に育っていくためにいろいろな教育活動を行っていくことだと思っていますので、例えば教育現場の方から子どもたちの視野を広げ、子どもたちを豊かにするために是非ユネスコスクールにも加盟したいという声が現場から上がったら一生懸命応援したいと思っています。以上です。

（議長 寺島渉）
石川議員。

（1 番 石川信雄）

町の総合計画では国際交流をうたっております。こういったユネスコスクールに取り組むということは、そういった意味からも非常に有効ではないかとは思いますが、いったい町はどのようにして国際交流を深めていくのか、そこら辺もお伺いしたいと思いますけれども、これは町長の方がよろしいですかね。

（議長 寺島渉）
峯村町長。

（町長 峯村勝盛）

国際交流というお話ですけれども、いろいろなかたちでの国際交流があり、旧三水でも実際に子どもたちをアメリカなどへ夏休みに送り込むとか、そういうような活動をしてきたり、町自体に外国から滞在をしてくれる、そういう国際交流員を迎えて活動してもらおうとか、様々な方法があるというふうに思っています。私はこれからの国際交流というのは、単に外国人が来ていただいて、町の中にいれば良いよというのではなくて、何の目的で、どういう外国人の人が来ていただけるというような、そういうしっかりとした目標を持った上で、国際交流を進めていく時代かなと思っています。教育長さんとも相談をし、やはり子どもたちに若い時から、国際交流という広い意味になってしまいますけれども、いわゆるグローバルな人間を育てていくという意味での取り組みはどんなかたちがあるのか、相談をしながら進めていくのも大事だと思っています。

（議長 寺島渉）

石川議員。

(1 番 石川信雄)

昨日ですけれども三水 B & G のリニューアルの式典がございました。その町長の祝辞の中でも、三水 B & G の周りは学園都市的な意味合いが非常に濃いという発言がありまして、北部高校があるわけですが、小中は飯綱町教育委員会の管轄になるわけで、高校は県になりますけれども、そういった中で学園都市というものを考えた場合、北部高校との連携も非常に大事なかなと思っております。

長野西高がユネスコスクールに加盟しているということでございますけれども、飯綱町の未来を考えた場合に北部高校が学校統合によって、再編によって仮に無くなったとしたらこれは大問題でありまして、そういった意味からも北部高校とのこういった環境教育ですか、牟礼駅に花を植えたりも北部高校の生徒さんなさっておりますけれども、そういったことについて、小、中、高と含めて改めてそういったことに意識を持って、こういった国際的な窓口に新しい扉を開けるというのはいいことではあるかなと思うんですが、どうも前向きな答弁が感じられないんですが、その点についてどうでしょうか。

(議長 寺島渉)

峯村町長。

(町長 峯村勝盛)

義務教育におけるユネスコスクールの考え方というのは、極めて馬島教育長から分かりやすい答弁があったと私は今聞いていて承知をいたしましたし、やはり現場に強い教育長をお迎えして正解だったなとつくづく思いながら聞いておりましたけれども、高校については、もちろん長野県立ですけれども、今、地域高校は地域の市町村とももの凄くこれから深い関わり合いを持って欲しいということを県も望んでいることではないかなというニュアンスを最近強く受け始めております。

そんな意味でユネスコとは別問題として、義務教育と連携をした高校の存在と、それに合わせた国際交流の推進をどういうかたちでやれば良いかは、これは十分考えていく必要があるだろうと思えます。

(議長 寺島渉)

石川議員。

(1 番 石川信雄)

それでは、この質問につきましては短い答弁でお願いしたいと思いますが、馬島教育長に改めてお伺いします。

今のところ取り組むことは考えておらないというような答弁でございましたけれども、今年度、改めて児童・生徒に対してユネスコスクールというものがあるという周知の機会を、生徒会等を含めて話す機会を設けられるかどうか、それについて改めてお伺いしたいと思います。

(議長 寺島渉)

馬島教育長。

(教育長 馬島敦子)

先ほどもお答えしましたが、ユネスコスクールについてのお知らせは、本年度も既に小中学校に全部配布されています。既に配布してありますので、それをどう活用されるかは、それぞれの学校現場にお任せしたいと思っております。以上です。

(議長 寺島渉)

石川議員。

(1 番 石川信雄)

配布で終わるのか、それとも活発な議論をされるのかによって取り組み方が変わってくると思うんですけれども、学校現場にボールを投げかけて、そこで終わりとするんでしょうか。

(議長 寺島渉)

馬島教育長。

(教育長 馬島敦子)

今のことについてお答えさせていただきます。ユネスコスクールの加盟資格というのは、就学前教育、小学校、中学校、高等学校、技術学校、農業学校、教員養成機関は国公立、私立を問わずユネスコスクールに加盟することができる。ユネスコの理念に沿った取り組みを継続的に実施することが必要である。加盟校に求められること。法的拘束義務などは無いがユネスコスクールガイドラインを踏まえた積極的な活動が求められる。年に一度、日本ユネスコ国内委員会に報告書の提出が必要である。ユネスコやその関係機関、団体が行う様々な活動に参加する機会を得るということが定められています。

繰り返しになるわけですが、このユネスコの理念に沿った取り組みを継続的に実施することが必要であるということについてですが、例えば飯綱中学校におきましてはひまわりプロジェクト、それから各小学校においては米づくり、りんご栽培、野菜づくり、それから皆様も既にご存知だとは思いますが、牟礼西小学校では 6 月 30 日にパラリンピックの銀メダリストをお招きして、ポッチャの体験学習、そういったような活動を積極的に行っています。これがすなわちユネスコの理念に沿った取り組みに当たると私は考えております。

それから年に一度、日本ユネスコ国内委員会に報告書の提出が必要なわけですが、これは教育現場にとっては、正直言って大変負担です。だから、このユネスコスクールを目的にしまうと、この報告書を書かなければならないから、じゃあ何をやる、報告書に載せなければいけないから、これをしなければいけない、そういう本末転倒が生じてきます。

更にユネスコやその関係機関団体が行う様々な活動に参加する機会を得るといって大変素晴らしく感じるわけですが、これがまた教育現場にとっては大変負担になります。

ですから、これは本当に教育現場の実情に応じて、できるところからやっていくわけですが、そこでまた繰り返しになりますが、ユネスコスクールに入るか入らないかというよりは、私が大事だと思っているのはこの中身です。ESD 教育を充実させる活動が成されているかいないかという意味では、今、飯綱町の小中学校においてもやられているし、今後もそういう活動を深めていきたいと思っております。先日、飯綱中学校の学校教育推進委員会がありました。そこでも教頭先生が 2 年生のキャリア教育では職場体験学習をやりますが、それもできるだけ地元飯綱町の企業や事業所とか、そういったところを知ることには力を入れてやっていきたいというお話がありました。そういったことを通して、この飯綱型 ESD 教育を益々発展させていきたいと思っております。

(議長 寺島渉)

石川議員。

(1 番 石川信雄)

私と教育長の間では意識が違うようで、教職員の負担が増える、報告書等負担が増えるとありましたけれども、あくまで主体は児童・生徒です。児童・生徒がこれをやっていきたいかどうかに関わっておることでありまして、私の方から強く言わさせていただきますと、学校現場で児童・生徒に対してこれを取り組むかどうかアンケート、そういったこともして欲しいなと思っておりますけれども、あくまで子どもたちが学ぶ機会を設けていくということでありまして、学校現場の教職員の方々の事務的な負担が増えるとか、そういう問題の話をしているわけではございません。そこを改めて認識をいただきまして今後考えていただきたいと思っております。時間の関係もあるので次の質問にまいります。

景観美化町 PR についてお伺いいたします。景観条例の整備は依然として進んでいないように見受けられます。花まつりも終わりました感じることは、丹霞郷の桃畑の規模縮小と地蔵久保の大山桜の衰退が顕著であることでもあります。住民発意の花の町づくり計画を募ってはいかががかと考えておりますけれども、これも議会提出の政策要望の回答書を見ますと、景観条例のことにつきましては、そのまま読み上げますけれども、最後の締めくくりとして飯綱町の場合は美しい田園、里山風景の観点で町独自の景観条例が必要であるか否か研究したいと考えていますとあります。これでは、今まで提案してきておりますけれども、景観条例を整備するんだ、制定するんだという意味が余り感じられないですね。研究したいとありますけれども、いったい今まで何をされていたんですかと言いたくなるような回答でありまして、町長の過去の私の答弁の中でも自然景観は大事だということを何度もおっしゃっておられます。

町長この回答につきましてどのようにお考えでしょうか。

（議長 寺島渉）
峯村町長。

（町長 峯村勝盛）

議員ご指摘のとおり、ひとまず研究という表現はしてございますけれども、気持ち的には担当の方には景観条例をもう作成しようと、こういうぐらいに今、要求をしている段階です。景観条例を制定していく上での法的な整合性、いわゆる規制をしていく部分が若干出てくるだろうと思っています。例えば住宅の屋根とか壁とか、または景色が見えなくなるような建物の高さとか、そういうところまで景観条例として制定をしていくとなると非常に他の法律、権利や民法等々の整合性、そしてまた我が町には、少し種類は違いますが、環境についての自然環境保全条例等々もございまして、これについてもいろいろな制約を課しているというような点がございまして、そこら辺との整合というような点で、取り組みづらというような面があったのだろうと推察しております。

飯綱町の大きな財産は自然景観であることは間違いございません。それを守るための条例は必ず制定していくということで、今、事務を進めておりますのでご理解いただきたいと思っております。

（議長 寺島渉）
石川議員。

（1 番 石川信雄）

少し安心したところではありますけれども、町独自とありますけれども、真鶴町では美のまちづくり条例というようなものも作っております。そのようなものを参考にしていっていいものが出来上がるのではないかなと考えます。

今回、集落創生事業ということで、町の方でも新たに計画を集落から募って始めました。前回、赤塩地区で呼ばれました懇談会の折に配られた資料によりますと、横手地区におかれましては、野菊の里が織り成す田園集落構想ということの基本目標に計画づくりをされております。非常に良いプランかなと私もこれを見て思いましたけれども、あそこはかつて映画のロケ地にもなったようでもありますけれども、桜の時期でしたけれども、浅川から飯綱町に上がってきまして、新しく出来たトンネルの長野市側と飯綱町側、長野市側は桜を植樹されたりして非常に整った、集落の皆さんの熱意というものも感じられる景色でありましたけれども、トンネルを越えますと地蔵久保の大山桜が左手にあります。今年、かなり樹勢が弱って大枝を切られたりしまして、見応えがちょっと迫りに欠けるものがありましたけれども、あぁいった花に親しむという、この横手地区のようにひな菊を植えて集落を飾りたてるとということは、こっこの三水地区においても芋川の役員の方から彼岸花をあぜ道に植えたいというような声も聞いておりますけれども、町全体として取り組むには非常に良いことではないかなと思います。道路沿いに、線上にやるもよし、面的な広がりを持ってやるも良いと思いますけれども、集落創生事業の中でそういった花に関する項目を必須項目として入れるということを考えていただければと思うんですが、かつて中山間地直接支払事業の中で、そういったグランドカバープランツを植えたらどうかという提案もしたことあるんですが、なかなかそちらの方の枠組みではいまだに土木関連の事業の方に行ってしまうがちですので、こういった新しい集落創生事業の中でそういうことに取り組んで欲しいなと思っておりますけれども、その点についていかがお考えでしょうか。

（議長 寺島渉）
小澤副町長。

（副町長 小澤勇人）

集落創生の計画に花づくりを強制的にということですが、集落創生事業の主旨としましては、主体的に議論していただいて、住民自らの発意で計画をつくるということです。特に若い方、女性の方を中心に話し合っていていただいて、それで認められた計画に対して町が一定の支援を行うという事業スキームでありますので、町の方から強制することを集落創生事業の中において行う考えはありません。

（議長 寺島渉）

石川議員。

（1 番 石川信雄）

関連ですけれども、集落創生事業、若者と女性を中心に計画づくりを策定するとあるんですけれども、なかなか若者、女性がそういった表立って前に出て活動するというキャリアと言いますか、経験がないものですから、取り組むに際し、やはり役場職員のサポートですとか、そういうのは必要になってくると思うんですが、そうやって町職員が実際に地域へ入り込んで指導、若しくは助言なり、応援サポートです。事務的な、そういったことを現場へ入ってやっていかれる予定はあるかどうか。

（議長 寺島渉）

小澤副町長。

（副町長 小澤勇人）

この 4 月、5 月と各地域を回らせていただきましたけれども、その際に地域担当制のことはよく話をさせていただきました。しかし、議員ご指摘のとおり、これまで職員が自ら地域に入り込むという活動は非常に少なく、課題があると感じております。ただ、町役場職員は地域担当制としてということではなく、自ら積極的に活動をしている方が多いということも感じています。

今後一層、町役場職員が地域活動に参加するよう日々促していきたいと思っております。

（議長 寺島渉）

石川議員。

（1 番 石川信雄）

それでは次の質問に移らせていただきます。東高原のアジサイは住民との協働で規模を拡大している途上ではありますが、視点を変えて、新たにスキー場ゲレンデにラベンダー等を植え、誘客につなげられないものかと思っております。

先のこれも新聞報道によりますけれども、長野市の飯綱高原スキー場、そちらでは 8 千万投入しても赤字になったという報道がされておりましたけれども、我が町のスキー場もこの 6 月でどうするかという岐路に立っているわけですが、ゲレンデを放置したままでは美観を損なうことになりかねないこととなります。そういった中でスキー場のグリーンシーズンの誘客として、ラベンダーですとかハーブ、ユリでも結構ですけれども、そういった花を植えるような計画を町がリーダーシップを取って産業観光課の方で考えておられるかどうか。

（議長 寺島渉）

峯村町長。

（町長 峯村勝盛）

やりたいのは本当にそのとおり、グリーンシーズンに国有地 80 ヘクタールに花一面、ラベンダーなど、そういう花が咲いているところに誘客しようということは、これは本当に誰もが考える夢のいい話ですが、かなりの費用が必要になります。たぶん国は、国有地をそういうことで利用すると言えば、それなりの貸付料を上乗せで払えば許可はしてくれるのではないかなと思っておりますけれども、そこら辺の維持管理費と、お客さんを迎え入れる関連の収支をしっかりとって実施をしないと、花だけ見て良かったねということで終わってしまうような気がします。私はグリーンシーズン、その花も含めていろいろな利用で収入が上がることを考えることは、極めて賛成です。

（議長 寺島渉）

石川議員。

（1 番 石川信雄）

かつて、スキー場の建築を直す費用としてクラウドファンディングに取り組んだことがありましたけ

れども、そういったグリーンシーズンのゲレンデ活用ですけれども、そういったことについてのクラウドファンディングなどは非常に有効ではないかなと思うんですが、そういったクラウドファンディングを使って資金を募るといこともお考えになられるかどうか。これは小澤副町長。

（議長 寺島渉）
小澤副町長。

（副町長 小澤勇人）

クラウドファンディングは資金調達としては有効な方法だと思います。ただ、町長の方からも申し上げましたとおり、非常に費用が掛かるという点や、それを維持管理していくことをきちんと念頭に置かなければいけないと思います。仮に植えた後にお金が無いか協力する方が少ないなどで枯れた状態になってしまうと、恐らく逆の効果が発生してしまうと思います。きちんとその後の手入れをしてくださる熱意を持った方、または団体などがあって、そういう方々がクラウドファンディングを通じて行ってきたいという強い思いがあれば、十分実施に値すると思います。

今、わらび園が始まっていますけれども、非常に良いなと思いますので、一度に大きくというよりもできるところから始めることが良いかと思います。

（議長 寺島渉）
石川議員。

（1 番 石川信雄）

それでは次の質問に移ります。冊子 IIZUNA 100 PROFESSIONAL PEOPLE、またイベントチラシ、いづなびとのデザイン手法に問題があると思いますけれども、私としては総合的にディレクション、監修者ですね、置いた方が良いのではないかと考えています。

まず、IIZUNA 100 PROFESSIONAL PEOPLE の方ですけれども、これは人選に当たっては 50 代以下に絞ったそうでもありますけれども、主な理由は何なのかというのをちょっと疑問に思うところでありまして、中高年世代からどうして年配者は全然出ていないのかという意見も寄せられております。そして、移住定住向けに編集したとも思えないところもあって、町内のそれこそ人材の掘り出しとしては整っておりますが、外向けの発信というような感じはまるで感じられないというふうに考えております。聞きますと町内には配っておるが町外には余り配られていないということでもあります。そんな中で、ああいう結構ボリュームのある、厚みのあるものは電子ブックという今の技術がありますので、町ホームページでバナーを置くとか、そういったもっと外向けの発信ができるものだと思いますので、そういったことにした方が良いのではないかなと思いますけれども、どのようにお考えかお伺いしたいと思います。

あと、いづなびとにつきましてはスタンプラリーという内容になっております。通常スタンプラリーといいますと、お寺巡りですとか、温泉の外湯巡りですとか、あとそば店巡りですとか、テーマを絞ったスタンプラリーが多いわけですけれども、今回は事業所巡りみたいなスタンプラリーになっております。かつて、商工会でイーブロンというりんごのスイーツですね、パティシエの鎧塚俊彦さん呼んでやった事業もありましたけれども、日本一のりんごの町を目指す町とするのであれば、やっぱりテーマを絞ってアップルパイ、りんごスイーツ、りんご料理等のスタンプラリーをした方が、町の PR になるかなと思うんですが、その辺についてもお伺いしたい。

また、チラシに町の QR コード、ポータルサイト、ネット上で情報を取れる QR コードとか、町キャラクターのみつどん、また町章等も印刷されておられません。ああいった QR コード関連のこういったロゴに関するものにつきましては、やっぱり広めて広めてながしかのやっと思知されるようなものがありますので、こういうチラシ印刷の機会に際して、そういったものをどんどん織り込んで印刷していった方が良いのではないかなと考えておりますけれども、そういうことについてもどのようにお考えなのか。

また、スタンプラリーを実施した後に、各事業所の売上げ等どのくらい加算されたのか、チラシ印刷に対する経費に換算して売上げの集客力がどのくらいアップしたのか等の調査を事後されるのかどうか、その辺を改めてお伺いしたいと思います。

（議長 寺島渉）

小澤副町長。

(副町長 小澤勇人)

貴重なご意見をいただきまして誠にありがとうございます。100 ピーブルもいづなびとも発行してまだ間もないということもありまして、実際にどうだったのかという具体的な評価をするのは時期尚早と感じております。むしろ、せっかく作りましたので、おっしゃるとおりアピールして、効果が出るようにきちんと活用していきたいと思えます。

ご提案のありました電子ブックや外向けの PR、QRコード、チラシについては、実際の編集や活用の方法がいろいろあるかと思えますので、いただきましたご意見も参考にきちんと活用させていただきたいと思えます。

また、実際の売上げ効果、特にスタンプラリーは具体的にどの程度の反応があったのか、また 100 ピーブルも実際にどのように経済効果に結び付いたのかという検証は当然必要であると考えています。少なくない金額を投じて行っているということもありますので、ご提案のあった検証方法も含めて、きちんと効果があったかどうかは確認をしていきたいと思えます。

また、今回で終わりということではありませんので、時期を見て更新をしていきますのでご意見を賜りながら、より良い PR の方法や冊子を作っていきたいと思えます。

(議長 寺島渉)

石川議員。

(1 番 石川信雄)

先月末にソトコトという雑誌の編集長の講演がありまして、私も編集に関心があるものですから行って話を聞いてまいりましたけれども、町がこうやって主導して冊子なり、チラシ作ってやるのも PR なんですけれども、ああいった若者世代に流通している雑誌に広告を出すというのも一つの PR 手法ではあります。その中で今回 IIZUNA100 ピーブルにつきましては、あと 2 号くらいは出されるのかなと思えますし、いづなびとも、あともう 1 回か 2 回続いて出るものと捉えておりますけれども、今回、私いろいろ指摘しましたけれども、今回指摘したことが改善されるかどうか改めてお伺いしたいと思えます。みつどんを載せるとか、町章をちゃんと印刷するとか。

(議長 寺島渉)

小澤副町長。

(副町長 小澤勇人)

個別具体的なご指摘に対してきちんと反映されるかということは、編集を若い方中心にお願いしているところもありまして、そういった場でご意見を取り入れさせていただいて検討していきたいと思えます。

(議長 寺島渉)

石川議員。

(1 番 石川信雄)

もう少しこの問題ちょっとやりたいんですが、次の質問に移らさせていただきます。地方創生の今後についてであります。小澤副町長が率先して引っ張ってきました地方創生事業でありますけれども、引継ぎの体制は万全であるでしょうか。

例えば、新規事業である新規就農者向け住宅などの貸出規程等は整っているか。また、今後 6 戸程度の拡充や、短期型のクラインガルデンのラウベ 12 棟ほどを望みますけれども、その用意はあるかについてお伺いしたいと思えます。これは結構絞って質問しておりますけれども、3 戸の新規就農者向け住宅ではちょっと少なすぎるのではないかなと感じておりまして、これはやっぱり予算を付けて今後増やして欲しいなと考えております。そのことについて予算が獲得できるかを含めましてお伺いしたいと思えます。

(議長 寺島渉)

小澤副町長。

(副町長 小澤勇人)

最初の引継ぎ体制ですけれども、今年 4 月から庁内の横断的組織ということで地方創生の特別のプロジェクトチームを規程に基づいて設置しまして、課を越えて、人口減少対策は町全体の課題ですので取り組んでいます。その中で、交付金の執行管理も行うということで、きちんと引継ぎ体制は整えたと考えております。

また、住宅ですけれども、獲得できた予算の範囲内で最大の設置をしているところで、6 戸 12 棟というようなお話ですけれども、大変な金額も掛かってまいります。また、実際に投下する資本をどの程度回収できるのか、そういった点も良く考えていかなければいけません。しかし、新規就農者向け住宅は多く設置できるものなら本当に多く設置したいというのが本音だとは思いますが、予算との兼ね合いで考えていきたいと思えます。

また、貸出規程ですけれども、この事業自体がまだ国に申請作業中の状態です。まだ正式に交付決定を受けているわけではありませんので、捕らぬ狸の皮算用にならないように余り深くまでは詰めていないところです。国からも指導を受けているのは単なる町営住宅ではなくて、新規就農者の獲得につながるような規程にしていきたいと考えておりますので、具体的に貸出期間が何年になっていくのか、そして家賃を幾らにするのか、そしてそれは普通の住宅とどう違うのか、そういった点を良く整理して効果のある事業にしていきたいと思えます。

(議長 寺島渉)

石川議員。

(1 番 石川信雄)

今回、新規就農者向け住宅ということで 3 戸ということでありましてけれども、今まで空き家を改修して、そういった新規就農の皆さんにもご利用いただくというような議論もしてきた経緯もございますけれども、貸し出しができるような空き家が無いということで住宅建設ということで今回移ってきたわけですけれども、本当に 3 戸程度では新規就農といっても、すぐ埋まってしまうような状態にはなろうかなと思えます。貸し出したらやはり 4 年、5 年なり自立していただかないと、やはり次の人に回っていかないというのがありますし、今後の話でありますけれども、そういったこともちゃんとお考えいただければと思います。

それで最後になりますけれども、小澤副町長にお伺いいたします。これまで地方創生事業、リーダーシップ持ってやってこられましたけれども、今後の課題は何であるか、また任期満了に伴い、町職員や町民へのメッセージは何でしょうか。お伺いいたします。

(議長 寺島渉)

小澤副町長。

(副町長 小澤勇人)

反省でございますけれども、私はこれまで全身全霊に町の発展を願って職務を推進してきましたが、住民お一人お一人に話を伺うと、未熟であったがゆえに至らぬ点が当然あったかと思えます。ご期待に沿えなかった点があるということについては、本当にお詫び申し上げたいと思っております。

そして、今後の課題ということですが、やはりチャレンジしていくことが重要ということと、初めの就任時に申し上げましたけれども、明るく楽しい町ということが一番大事であると思えます。雪国ということもあって、若干閉鎖的、そして消極的な考えになりがちかもしれないわけですが、明るく楽しくということで、具体的には人の幸せを喜んで、人の不幸を悲しむことができる、そういう地域になって欲しいというのがメッセージでございます。これは言い換えると、人の悪口を言って自分の自慢ばかりするというのは駄目なことであって、人を応援して自己研さんに励むというのが、人の幸せを喜んで人の不幸を悲しむということと同じであると思えます。つまり、地方創生で補助事業を行うと何であそこだけ、こちらにもという話がすぐ出ますけれど、それは正に人の幸せを喜び不幸を悲しむとは逆のことでありまして、人を応援し明るく楽しい町になって欲しいと思えます。そういうことを続

けますと、対外的にも何か楽しそうな町だということで人口増にもつながるのではないかと感じておりますので、馬島教育長さんもおっしゃったような ESD 教育や、その教育の理念を是非貫いて良い町になって欲しいと考えています。

（議長 寺島渉）

石川議員。

（1 番 石川信雄）

ちょうど眞子様がブータンを訪問されまして、あの国は幸福度世界一を目指している国でありますけれども、飯綱町も正に幸福度を追求していくべきかなと私自身も考えております。最後ではありますけれども、総務省へお帰りになられてからも小澤勇人氏のご健勝とご活躍を祈念いたしまして、私の一般質問を終わりとさせていただきます。

（議長 寺島渉）

石川信雄議員、ご苦労様でした。

暫時休憩に入ります。再開は 10 時 10 分ということにします。